

2017年7月23日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙2章1～10節

02:01 さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。 02:02 この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。 02:03 わたしたちも皆、こういう者たちの中において、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。 02:04 しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、 02:05 罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです—— 02:06 キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。 02:07 こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです。 02:08 事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。 02:09 行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。 02:10 なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。

《説教》『恵みにより信仰によって救われる』

◆異常気象と言えばよいのでしょうか。九州から北海道まで豪雨に見舞われております。その報道に触れるたびに“大変だなあ”と思わない訳にはゆきません。この異常気象は今年だけのことではなくて、地球が徐々にこういうふうに変化してきているのかもしれないと思ったりもします。そして、明日のわが身ですから。そういう中に私たちの日々があります。

◆わたしたちはこのように主の日の礼拝を捧げております。ですからそれなりに健康を与えられているわけですけれども、私たちがこのようにしているこの時にも病のために、生

きるか、死ぬかという病の中におられる人もあります。また心を病んでいる人もあります。また魂に何の慰めも持たない、そういう人もあります。

◆実は、この教会のすぐ前に電柱があって電線があります。そこに鳩とかカラスが止まります。そしてそこから糞を落とすのです。それは教会の階段のところとか、入り口の真ん前に落とすのです。日によっては、朝、昼、夕方と、ホースで綺麗にながさねばなりません。毎日のことです。それで久保渕博さんが関電に交渉をしてくれて、8月24日に来て、鳩やカラスが止まったらピリピリとする仕掛けをしてくれる事になったのでひと安心です。

◆それで今朝も早起きして、教会の玄関を見ましたら、カラスどころではありません。教会の入り口の扉から階段から、掲示板も、冊子を入れているBOXも、ワインジュースと思われるが、振りかけられていました。それで思い出したのですが、数年前に、教会に消火器が投げ込まれる事件が、相次ぎました。京阪神地区で数十か所の教会が被害を受けました。私達の教会の南側と東側2か所に投げ込まれました。消火器を投げ込んだ人は、教会に恨みを持っていたのですね。そのことを思い出しました。教会が誰かに恨みを持っていたのかもしれないなと思ったのですが、私は不思議と腹が立たなかったのです。このことでは全く心はゆれなかったのです。

◆それは今日のご一緒に読む聖書とも関わりがあります。本当にいつ何が起こるか分からない物騒な世の中になっていますけれども、このエフェソの信徒への手紙の今日は2章1節～10節までを読んでいたのですけれども、すごいことが書かれていますね。わたしたちキリスト者はどんな救いにあずかっているのか。どんな恵みを受けているのか。それは言葉に表せないものです。説教者はそれを皆さんにとりつがなければなりません。日曜学校でも説教をしますから、大人の説教と子どもの説教と同時並行で準備をします。今日の聖書とも関係があるのですが、子どもには今日はここの箇所です。マタイによる福音書7章21節・山上の説教の一番最後のところです。「わたしに向って主よ、主よと言う者が皆。天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけがはいるのである」。この御言葉が与えられて子どもたちにこの箇所です。◆そして子どもたちとこの讃美歌を歌いました。280番の『まぶねの中に』です。「1番まぶねのなかにうぶごえあげ 木工の家に ひととなりて まずしきうれい 生きるな

やみ つぶさになめし この人を見よ。2番食するひまも うちわすれて しいたげられし ひとをたずね 友なきものの 友となりて こころくだきし この人を見よ 3番すべてのものを あたえしすえ 死のほかにも むくいられで 十字架のうえに あげられつつ 敵をゆるしし この人を見よ 4番この人を見よ この人にぞ こよなき愛は あらわれたる この人を見よ この人こそ 人となりたる 活ける神なれ」。

◆子どもたちに「イエス様の教えって何と思う?」「イエス様ってどんな人と思う?」と質問しますと、子供達は 「一口で言われへん!」と上手に答えます。それで天の父の御心を行うというのは、絶対許せないと思うようなことがあっても、私達が許すように、そうできるように、神様は、私達を新しい者に造って下さった。今日の聖書の箇所エフェソ書2章10節の最後にこうありますね。「なぜならわたしたちは神に造られた者であり、しかも、神が前もって準備して下さった善い業のためにキリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです」とパウロは言います。私達は、イエス様を甦らせなされた神様によって、イエス様に合わせられて、わたしたちも甦らされたのです、ということを行っていますね。6節に「キリス・イエスによって共に復活させ。共に天の王座に着かせてくださいました。」こうして神はキリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを来るべき世に現そうとされたのです」とあります。「事実あなたがたは恵みにより信仰によって救われました。このことは自らの力によるのではなく神の賜物です。行いによるものではありません。それはだれも誇るこのがないためなのです。なぜならわたしたちは神に造られた者であり、神が前もって準備して下さった善い業のためにキリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちはその善い業を行って歩むのです。」

◆つまり、わたしたちは赦されて新たな朽ちない命によみがえらされて、善い業に生きる者とされているのです。わたしたちはイエス様と共に天の王座に着かせていただいているのです。1章3節にこうありました。「わたしたちの父である神がほめたたえられますように。神はわたしたちをキリストにおいて天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。」これによってパウロは自分のことを言い、エフェソの信徒の人々のことを言い、また今日・ここで、今神様を礼拝しているわたしたちが何にあずかっているのかというこ

とを示していてくれるのです。この救いと恵みに与っている者が善い業を行って生きるのです。善い業とは何か。赦し難い者を許す。色んなことが起こるのですけれどもキリストはそれをも許し給う。そして罪のゆえに死んでいた者を、迷っていた者を、病んでいたわたしたちを、もう何があっても、何が起きても、失うことも、奪われる事もない、そういう永遠の命に、わたしたちは今あずかっているのです、とパウロは申します。先週ユダヤ人の挨拶言葉は一般的には「シャーローム」「平安がありますように」という言葉ですが、もう一つ「ペレー」という挨拶がある事を紹介致しました。これは神様の「奇しき御業！」という意味でした。お互いが会った時、お互いが神様の「奇しき御業！」である事を確認し合う。

◆今日の最後のところをもう一度お読みしましょう。10節「なぜならわたしたちは神に造られた者であり、しかも神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちはその善い業を行って歩むのです。」神様の恵みのみ、憐みのみです。その憐みによって私たちは新しい命に造られたのです。一粒の種のごとく、この奇しき憐れみの御業に与った、赦しの実が広がって行く。神様の御業！私がそうなのです。皆さん一人一人そうなのです。それを私たちが生きる時に、確かに変わりますね。奇しき御業としての御心が、許しが広がって行く時、何と愚かなことをし、何でそんなことで思い煩っていたのか。そういう思い煩い解放されて、本当に平和の中にある自分を発見するのではないのでしょうか。その時に阿保なことはもうできないです。神様を讃え、その恵みを伝え、様々な思い煩いの中にある人を思いやり、絶対に許せないという仕打ちを受けた人をも許す。そのような救い、許しのあることの自覚を強められて、行きたいと思います。

◆お祈り致します。憐み深い主イエス・キリストの父なる神様。始めからあなたは私達をこの幸いにこの救いに入れるために造って下さいました。そして今や、主イエス・キリストと共に、天の王座に着かせていて下さる驚くべき恵みを覚え感謝いたします。日々この恵みを生きる者として下さい。わたしたちの生活自体が、存在自体が、あなたの恵みの証しであらせて下さい。この祈りイエス様のみ名を通しみ前にお捧げいたします。アーメン。